

# 普段の研究活動を評価するためのルーブリック(研究ⅡS・A)

( )組 ( )番 氏名( )

【活動の評価の観点について】

毎回の研究活動を、以下にルーブリックの形式で示した観点をふまえて自己評価・相互評価するとともに、学期ごとに重点とする【研究力】と教育活動のなかで総合的に培われた【厚みのある教養】の相関を踏まえて振り返ろう。評価することが目的なのではなく、日々の研究活動を振り返ることで自分の改善すべき点などを把握し、次の活動へ活かすことが目的であることに留意する。

| 「研究」活動のルーブリック   | 到達度の評価                         |  |  | 1学期<br>※この学期で取り組んだ研究を振り返り、該当する観点すべてに記入してください。   |                                 | 2学期<br>※この学期で取り組んだ研究を振り返り、該当する観点すべてに記入してください。 |                                 | 3学期<br>※この学期で取り組んだ研究を振り返り、該当する観点すべてに記入してください。 |                                 |
|---|--------------------------------|--|--|---|---------------------------------|---|---------------------------------|---|---------------------------------|
|   | A                              | B  | C  | 評価  | 理由 ※その評価となった理由をできるだけ具体的に記述すること。 | 評価  | 理由 ※その評価となった理由をできるだけ具体的に記述すること。 | 評価  | 理由 ※その評価となった理由をできるだけ具体的に記述すること。 |
| 【研究力】   | ①課題の発見と<br>②仮説の設定              | ・先行研究の知見を踏まえ、課題を立てている。さらに課題解決後の活用についてまで説明できる。<br>・先行研究の結果や予備実験、研究に必要な知識に基づいて仮説を設定している。                                   | ・先行研究の知見を踏まえ、課題を立てている。<br>・仮説を設定できているが、根拠に乏しい。   | ・先行研究と自分の問いに区別がない。または先行研究を調べていない。<br>・仮説を設定できていない。  |                                 |   |                                 |   |                                 |
|   | ③実験と検証                         | ・設定した仮説を確かめられる実験ではあり、測定方法や記録が妥当なものである。   | ・設定した仮説を確かめられる実験ではあるが、測定方法や記録が不十分。   | ・設定した仮説を確かめられる実験とは言えない。   |                                 |   |                                 |   |                                 |
|   | ④分析と考察                         | ・実験からわかったことと、設定した仮説を確かめられたのかを、データや根拠に基づいて言及できている。  | ・実験からわかったことと、設定した仮説を確かめられたのかに対して言及しているが、データや根拠が不十分。  | ・実験からわかったこと、設定した仮説を確かめられたのかについての分析と考察がない。   |                                 |   |                                 |   |                                 |
|   | ⑤新たな問いの発見                      | ・分析と考察に基づいた新たな問いを発見できている。さらにその問いが解決すると何に活用できるかまで見通しが立っている。<br><br>・見通しを持って、研究のサイクルを理解し、実践できた。                            | ・分析と考察に基づいた新たな問いを発見できている。<br><br>・研究サイクルについて理解できた。   | ・新たな問いがあるが、分析と考察とは無関係。または新たな問いが発見できていない。<br><br>・研究サイクルへの理解が不十分   |                                 |   |                                 |   |                                 |
|   | 教養を支える知識・技能の習得と実社会を俯瞰して考える力の育成 | ・課題を解決するために先行研究や自分たちの実験データを参照するとともに、様々な知識・経験を結びつけて関連する知識を得ている。<br><br>・課題研究を通して、他者との共有の中で知を繋ぎ、多様な視点を往還しつつ問題構造を俯瞰的に捉えている。 | ・課題を解決するために先行研究や自分たちの実験データを参照するとともに、分野に関連する基礎知識を得ている。<br><br>・課題研究を通して、他者との共有の中で自己の課題を相対的に捉えるとともに、多面的な視点を往還することができている。 | ・課題を解決するために先行研究や自分たちの実験データを参照できず、分野と関連する知識が不十分である。<br><br>・課題研究を通して、他者との共有をしていないが、自己理解まで結びついておらず、相対的に課題を捉えることが不十分である。 |                                 |   |                                 |   |                                 |
| ○【厚みのある教養】を伴った【研究力】の育成、【研究力】を身につけたことによる【厚みのある教養】の醸成   |                                |  |  |   |                                 |   |                                 |   |                                 |
| 自然科学、人文社会の分野を問わず、各教科や研究の時間を通して得ることのできた【厚みのある教養】を、自分の【研究力】の育成に活かすことができたかどうか。また、【研究力】を磨くことで、広い知見を有した【厚みのある教養】を身につけることができたかどうか。できるだけ具体的な例を挙げて振り返ってみよう。 |                                |  |  |   |                                 |   |                                 |   |                                 |